

山々の恵みを受けた土地ゆえの群雄割拠、 さらに信仰と営みのみえる地・郡山

北西部から北東部にかけて、重平山、上^{じょうぐうだけ}宮岳、八重山、花尾山、三重岳と約 500m から 600m 級の山々がそびえる地域です。それらの山々を源とし、甲突川や神之川、川田川が流域を潤し、豊かな水田地帯が谷間の平地に広がります。

こうした自然を背景にして、平安期から満家院^{みつえいん}と呼ばれ、大蔵氏や税所氏、比志島氏などが領主として統治しました。大蔵氏は、現在も郡山の人々の拠り所である花尾神社と厚地山権現の創建に関わりました。承久の乱後には、大隅方面に勢力のあった税所氏が満家院の院主として君臨します。その後、一時大蔵氏の一族の郡山氏がこの地に勢力を持ち、さらに伊集院氏や島津氏、在地勢力である比志島氏一族、入来院氏もこの地に勢力を伸ばそうと戦乱が繰り返されました。

江戸期以降は郡山郷と伊集院郷として推移し、新田開発などが行われました。郡山村・西俣村・油須木村・東俣村・川田村・厚地村は郡山郷、嶽村と有屋田村は伊集院郷でした。こうした郷内の村々では神社や寺院、さらには豊作を祈る田の神が人々の拠り所となり、その思いが現在も継承されています。島津本宗家にとっても重要な意味を持つ花尾神社や、上宮岳を信仰対象とした智賀尾六所権現^{ちかお}こと智賀尾神社は、その代表格です。

山々の恵みが豊かな地域ゆえに、人々は生活にさらなる豊かさを求めて開発し、工夫しながら暮らしてきたことを感じさせてくれる地域です。

1. 山々とそれを源とする河川とのつながり

郡山地域の北部には最高峰の八重山を中心として、分水嶺となる山々が連なっています。八重山は 676m あり、ここを源とするのが鹿児島市街地を流れる甲突川です。標高 523m の重平山や 551m の上宮山を源とするのは日置市街地を流れる神之川です。東部には 540m の花尾山や 486m の三重岳があります。こうした山々は信仰の対象となり、山頂には祠が安置されたり、麓には神社が創建されたりしています。このように郡山の人々にとって山は生活に欠かすことのできない存在であると同時に、それらを崇拜してきました。また河川は、生活に欠かすことのできない存在でもあります。この河川からの恵みで田や畑が形作られ、豊かな農耕地である郡山が誕生しました。

①八重山

一番高い場所の標高は 676m で、東西に長く入来町側と郡山町側との分水嶺となっ

ています。麓にある甲突川の源流にあたる甲突池付近から登山ができます。

②花尾山

標高は 540m あり、麓には花尾神社が鎮座します。別名は厚地山で、山ツツジや野ツツジが山肌に咲くことから花尾と呼ばれるようになりました。



花尾山

③上宮岳

八重山に連なる山脈の西側に位置し、伊集院方面に流れ東シナ海に注がれる神之川の源流が八重山と上宮岳付近にあります。標高は 551m で、その名前からも連想されるように信仰の対象とされてきました。上宮岳を中心として、入来方面の麓にも智賀尾神社や近岡神社が点在しています。



上宮岳

④三重岳

標高 486m で、登山も可能です。山頂に牛馬の神である馬頭観音が鎮座しており、江戸期には山の周辺に馬を放牧する牧(比志島牧)がありました。

⑤甲突川（甲突池）

本流延長は 24.6 km で鹿児島湾に注がれます。源流である甲突池が八重山の麓にあります。かつては神月川や江月川とも称されていました。郡山北部では急勾配の地形を下りますが、郡山麓から小山田にかけてはなだらかな平坦地を流れます。流路の途中では用水の取水口も設けられるなど郡山地域の農業を支えています。



甲突池

⑥神之川（轟の滝）

八重山付近を源流とし、流路延長は約 28 km で東シナ海に注ぎます。上宮岳を信仰する智賀尾神社近くを川が流れ、「神」は当社を指すとされています。郡山地域では主に有屋田方面を流れ、その名のついた温泉もあります。また、流路の途中には轟の滝もあります。



轟の滝

⑦川田川（轟の滝）

川田付近を流れ、甲突川の支流となっている川です。川田橋の上流では溶結凝灰岩が浸食され、滝を形成しています。

⑧湖成層や黄鉄鉱

今から 200 万年前まで、郡山地域から北薩方面にかけた地域には大きな湖があったとされています。そのため、郡山の様々な場所では湖だった証拠となる湖成層が確認できます。そこに地下のマグマ活動によって生じた熱水が入り込むことで黄鉄鉱が生成され、特定の場所で観察することができます。

2. 様々な領主や豪族の足跡

鹿児島、吉田院、伊集院、入来院といった地域に接し、要の場所であった郡山地域は、勢力を持った豪族にとって抑えておきたい地域でした。山城が構築され、様々な勢力がせめぎ合い、激しい戦いの場となったことから、戦乱で亡くなった人々を供養するための石塔も多数確認されています。

古代には、郡山という地名が示すように、日置郡の中心的役割を担う施設があったとも考えられています。中世では満家院と呼ばれ、その郡司には平安期から大蔵氏が君臨していました。その後、大隅国に勢力のあった税所氏が郡司となりましたが、南北朝期には、大蔵氏の一族である郡山氏が所有するようになりました。しかし、西俣や川田などは、大蔵氏の一族である比志島氏の勢力が優勢であり、そこから後に川田一族が生まれます。また伊集院であった有屋田は、伊集院氏の一族の有屋田氏が勢力を及ぼしています。このように、郡山は様々な豪族がせめぎ合う地域でした。

①点在する供養塔群

群雄割拠の地であったため戦も多く、支配層も変化したことから様々な時代の供養塔が地域に点在しています。有名な石塔としては川田堂園の供養塔群(県指定文化財)があり、規模や形状も圧巻です。川田には川田氏累代墓石塔群があります。花尾神社には神社に隣接していた平等王院関係の石塔群、常盤には中世五輪塔が百基以上も斜面地に並んでいます。



川田氏累代墓石塔群

②川田神社（川田義朗関係）

島津氏の家臣でもある川田氏のうち、12代^{よしあき}義朗が祭神です。かつては、この場所に川田氏の菩提寺・大川寺がありましたが、^{はいぶつきしゃく}廃仏毀釈によって廃寺となりました。御神体として勝軍地藏三尊が安置されています。川田義朗は島津氏の軍師を務めた人物です。



川田神社

③有屋田城

伊集院氏の分家にあたる有屋田氏が居城としていた城です。有屋田氏は、慶長5（1600）年に日向の高岡郷に移されるまでの約200年間居城していました。



有屋田城

④和田城

有屋田城と神之川をはさんだ場所に位置する山城です。実態が正確には確認されていない城でもあります。城の裏側には水田などが広がっています。別名^{ひじりのじょう}聖ノ城とも呼ばれていました。



和田城

⑤郡山城

郡山の中心部の北側に位置する山城で、4つの曲輪が合わさり郡山城とされています。城主は様々で、最初は大蔵氏だったとされています。入来院氏の勢力がこの地に及んだ時代もあり、戦国島津氏の忠臣として知られる新納忠元が初陣を飾った城でもあります。

3. 地域に根付いた信仰

北部や東部にかけての標高の高い山々は、信仰の対象とされ、修験者などが宗教施設を置く場所と位置付けてきました。また、この地を治めた領主たちもそれらを信仰し保護してきました。現在も地域には神社などが残っていますが、寺院に関しては明治2（1869）年の廃仏毀釈によって例外なく廃寺となったことから、住職墓などの痕跡を静かに伝えるにとどまります。

①花尾神社(県指定文化財)

御祭神は清和天皇、源頼朝、丹後局、僧永金で、創建は建保6（1218）年とされて

います。かつては厚地山権現とも称され、島津氏歴代当主や地域の首領によって信仰されてきました。境内周辺には、神宮寺であった平等王院関係の住職墓や丹後局の墓などが並んでいます。

②智賀尾神社

上宮岳を信仰の対象とした山岳信仰と深い関係があり、近くを流れる神之川の名にも影響を及ぼしました。現在地への遷宮後は、地域の神としても信仰されています。



智賀尾神社

③霧島神社（狛犬）

創建年代は不明ですが、御神体の鏡に延宝9（1681）年とあり、また苗代川の朝鮮陶工らによって制作された陶器製の狛犬も寛文8（1668）年のものであることから、江戸初期には鎮座していたようです。



霧島神社

④南方神社

かつては武の神である諏訪大明神として信仰されていました。付近はかつて伊集院の勢力下にあったことから創建には伊集院氏が関わっています（「郡山郷土史」）。



南方神社

⑤各地の田の神・講

豊かな田園地帯が広がる郡山地域には、様々な形状の田の神が点在しています。また、削りやすい溶結凝灰岩が産出することから、地元の石材を使用した田の神であることも特徴です。珍しい形状として、大平の田の神は正面だけでなく、側面にも刻まれています。有屋田の田の神は昭和7（1932）年作ですが、地域にモデルが実在したかのようなリアルな表情をしています。大浦や寺下には祠タイプの田の神もあります。



大平の田の神

また少なくともはなりましたが、それぞれの田の神を祭る講が行われている地域もあります。

4. 自然を活かした生活の痕跡

郡山は豊かな自然に育まれた地域です。人々は山間部からの恵みを受けながら暮らしてきました。また、大きく2つの良質な溶結凝灰岩が産出する地域でもあり、それ

らは「郡山石」や「花尾石」と呼ばれ、建物や石垣、墓石などに広く利用されてきました。こうした自然からの恵みを背景とする生活の証が各地域に残り、そこから郡山地域の人々の生活史をたどることができます。

①かわみ橋下の水くみ場

河床面には「花尾石」と呼ばれる溶結凝灰岩がみられます。その凝灰岩でできた橋の下には、周辺地域の方々が水くみ場として使用していた井戸があります。現在は使用されていませんが、今でも水が湧いており当時の様子をしのばせてくれます。



かわみ橋

②花尾の炭焼き場

花尾神社入り口から入来峠方面に向かう道路沿いの民家の横の崖沿いにあります。この崖は加工がしやすい溶結凝灰岩で形成されています。洞窟も掘りやすかったことが想像されますが、天井にも穴をあけるなど巧みに加工され、炭竈として利用されています。溶結凝灰岩をくり抜き、炭窯として活用していた珍しい事例です。



花尾の炭焼き場

③西俣の防空壕

太平洋戦争の空襲に備えた家庭用の防空壕。民家の背後のいわゆるシラス地形を掘りこんだものですが、その規模は大きく、周辺住民の避難も可能な大きさです。現在は資材などの物置として使用されていますが、この規模の防空壕は貴重です。



西俣の防空壕

④柿木平公民館の植林碑

集落運営のために集落の背後にある山に植林をしていました。これを活動資金としていた時代があり、現在の公民館に石碑が移設保存されています。

⑤川田橋

明治 34(1901)年と架橋記念碑に彫られています。二連のアーチ橋で、現在でも現役で利用されています。石材となる溶結凝灰岩は地元でも産出するもので、川田橋の河床や周辺で



川田橋

も産出します。

⑥地域に点在する石蔵

加工しやすい溶結凝灰岩が産出する郡山地域では、その石材を活用した石倉や石垣などを至る場所で確認することができます。時代とともに少なくなりましたが、それでも現役で役割を担っている石造物が多数あります。

⑦すぼひきっ

藁を使用した賭け事で、いくつかの分けられた藁の中から1つを選び、それで賭け事のように引き合って遊ぶというものです。子どもから大人まで遊んでいたそうです。

⑧馬場市

かつての郡山の麓の道路沿いを歩行者天国にして行われた市で、金物屋、竹細工、木市、おもちゃなど様々なものが立ち並びにぎわう市でした。「馬場市の風に吹かれれば風をひかない」とも言われていました。12月と3月の年2回行われていました。



郡山麓

⑨石切場（郡山石・花尾石）

郡山では大きく二種類の石が産出し、その産出する場所によって名前が付けられています。今から33万年前に堆積した加久藤火砕流が起源となるのが「郡山石」です。主に郡山地域の中央部の谷で産出します。11万年前に堆積した阿多火砕流を起源とするのが「花尾石」で、花尾地区で産出します。石切り場もあり、現在も少し採取されています。

⑩入来峠（大観峰の碑）や旧街道

入来峠は、鹿児島城下と入来や宮之城を結ぶ街道沿いにあたり、難所でありながら、通行する人の多い峠でした。

⑪千年の森

鹿児島市が管理し、広さが71,534 km²もある広大な森です。その中に約230種の植物があり、鹿児島の準絶滅危惧種のトノサマガエルも生息しています。

⑫花尾の古道

島津家にとっても大切な花尾権現社こと花尾神社は、鹿児島城下からの参詣も多くありました。鹿児島城下から花尾神社までの行程は、藩主の参詣も行われていることから「蟻の花尾詣で」と称され、人々がお参りする道として使用されていました。それが花尾の古道です。



花尾の古道

5. 郡山の文化を次世代につなげる活動

郡山地域は、鹿児島市街地のベッドタウンとして新しい住宅地も造成されています。様々な経験や思いのある方々が住まう地域だけにまちづくり活動も盛んで、地域資源を活用する取組が多彩な形で展開されています。また郡山町時代から、ふるさとのことを思う方々の活動も継続されています。こうした人々の活動が、郡山の個性を次世代につなげることに寄与しています。

①郷土料理の継承（野下さん食事提供）

郡山地域で食べられてきた料理を婦人研究グループとして継承してきたのは野下さんです。現在でもその活動を継承されています。



がね



そば

②ひとつば劇団

郡山に伝わる民話など楽しく方言を交えながら地域の人々に劇として提供する活動をしています。また、郡山に伝わる民話などの掘り起こしもしています。

③郡山ふるさとを学ぶ会

郡山の歴史文化を研究し、メンバーの方を含めて定期的に発表するなどの活動をしています。郡山地域のみならず、周辺地域の歴史文化を継承する大切な活動です。

④川田水車を復活する活動

川田橋の横には、かつて骨粉を製造するための巨大な水車がありました。上流から取水してその水で水車を回し、骨粉を製造していました。その工場は閉鎖されました

が、隣接地には石倉も残り、そこを拠点にして水車や水路の掘り起こしを進め、見学できる環境を整えています。

⑤三蔵塚の相撲大会

現在には行われていませんが、かつては巨大な石塔である三蔵塚の周辺で相撲の奉納が行われていたようです。

⑥花尾神社に奉納される民俗芸能など

花尾神社では秋の大祭で、花尾の太鼓踊りや獅子舞などが奉納されます。太鼓踊りはかつて郡山地域で盛んでした。現在でも残る花尾の太鼓踊り(市指定文化財)は、背の高い矢旗が特徴で、見学する人々を魅了します。また大平の獅子舞(市指定文化財)も鹿児島県では珍しい獅子の登場する庭狂言です。この他、西上の太鼓踊り、西俣の八丁杵踊り、岩戸の疱瘡踊りがいずれも市指定文化財です。

⑦甲突池まつり

5月中旬の日曜日に甲突川の源流でもある甲突池で開催されます。水にちなんだ「郡山ガラッパ音頭」にあわせて、地元の幼稚園児らが河童と小天狗に扮した踊りを踊ります。

⑧岩戸の田の神講

一年の豊作を感謝する田の神講は細々と地域ごとに行われています。役員の方々が集落にある田の神に参拝して、その後簡単な祝宴を開いたりします。かつては盛大に行われていたようです。

【郡山地区の主な未指定文化財リスト】

1. 山々とそれを源とする河川とのつながり	
1	八重山
2	花尾山
3	上宮岳
4	三重岳
5	甲突川（甲突池）
6	神之川（轟の滝）
7	川田川（轟の滝）
8	湖成層や黄鉄鉱

2. 様々な領主や豪族の足跡	
9	点在する供養塔群
1 0	川田神社（川田義朗関係）
1 1	有屋田城
1 2	和田城
1 3	郡山城
3. 地域に根付いた信仰	
1 4	智賀尾神社
1 5	霧島神社（狛犬）
1 6	南方神社
1 7	各地の田の神・講
4. 自然を活かした生活の痕跡	
1 8	かわみ橋下の水くみ場
1 9	花尾の炭焼き場
2 0	西俣の防空壕
2 1	柿木平公民館の植林碑
2 2	川田橋
2 3	地域に点在する石蔵
2 4	すぼひきっ
2 5	馬場市
2 6	石切場（郡山石・花尾石）
2 7	入来峠（大観峰の碑）や旧街道
2 8	千年の森
2 9	花尾の古道
5. 郡山の文化を次世代につなげる活動	
3 0	郷土料理の継承（野下さんの食事提供）
3 1	ひとつば劇団
3 2	郡山ふるさとを学ぶ会
3 3	川田水車を復活する活動
3 4	三蔵塚の相撲大会
3 5	甲突川まつり
3 6	岩戸の田の神講